

◆試験問題

以下の問いのそれぞれについて、選択肢から一つ選ぶ形で解答してください。（1問4点）

（1）日本における「公共性」の意味には大きく二つのものがある。一つは「多くの人々の利益に関わるものであること」だが、もう一つは何か。

1. 自助ではなく公助および共助の領域に属するものであること
2. 多くの人々が参加できる開かれたものであること
3. 公共の福祉を促進するものであること

（2）J. S. ミルの提起した「他者危害原理」に照らして認められるものは次のうちどれか。

1. 対象者自身の利益を促進すると見込まれる一定の法的強制（例：シートベルトの着用の義務づけ）
2. 他者に不利益を及ぼす可能性があるが文化的に認められていると考えられる活動（例：カフェやレストランでの喫煙）
3. 本人自身が熟慮の上に選択する危険な行為（例：危険性について熟知した上での登山）

（3）J. ロックが論じた「宗教的個人主義」の考え方として適切なものは次のうちどれか。

1. 魂の救済は個人の良心の問題であり、なんらかの教義を政治的に強制して達成できるものではない
2. 魂の救済は個人的な利益の徹底的な追求によってこそもたらされるのであり、利他主義は偽善である。
3. 魂の救済は個人が独力でのみ到達しうるものであり、教会をはじめとする宗教結社はすべて禁止すべきである

（4）「自由と幸福の一致」という考え方の成立に大きく寄与したのは次のうちいずれの人物か。

1. アリストテレス
2. トマス・アキナス
3. ジェレミー・ベンサム

（5）「リップマン＝デュエイ論争」におけるリップマンの懸念として正しいものは次のうちどれか。

1. 社会が複雑化した現代では、市民は多くの政治的問題について十分な知識や情報を持たず、適切な判断を下すことができない
2. 社会が世俗化（脱宗教化）した現代では、市民はもはや共同体の政治活動に参加しても魂の救済に至ることができない
3. 社会がグローバル化した現代では、民主主義もまたグローバル化しない限り適切に機能し得ない

(6) 「ポピュリズム」のメリットとして一般的に認めうるものは次のうちどれか。

1. 固定化した権威に対して民主化を求める原動力となる
2. 三権分立が強化され、より安定した政治が可能となる
3. 倫理的に優れた人物がトップに立ち、社会が安定する

(7) 「個人の自律」を否定することの問題として適切なものは次のうちどれか。

1. 当の社会における刑罰の厳罰化につながりうる
2. 個人の自尊心をも否定することにつながりうる
3. 市場における悪質な取引の拡大につながりうる

(8) アマルティア・センが提唱した「ケイパビリティ」の説明として適切なものは次のうちどれか。

1. 「自分の望む生き方ができること」という意味での自由の幅
2. 「自由に消費できる潜在的な財・サービスの量」という意味での経済的な豊かさ
3. 「自分の中に秘められた才能の大きさ」という意味での将来への期待

(9) 国連開発計画（UNDP）が測定している「人間開発指数（HDI）」の構成要素に入らないものは次のうちどれか。

1. 平均余命
2. 報道の自由度
3. 一人当たり国民総所得

(10) 個々人のケイパビリティの拡大のために必要なものは大きく二つある。一つは選択肢を作り出すための「物質的・法的な基盤」だが、もう一つは何か。

1. ナショナル・アイデンティティを保護する「厳格な国境」
2. 伝統的な価値観に沿った選択を促す「共同体的規範」
3. 選択それ自体を可能にする「良好な他者関係」

(以上 10 問、計 40 点)

◆解説

期末テストはオンラインで、manaba を利用して実施した。短答式の問題で授業内容の理解度を確認した。正答は順番に 2、3、1、3、1、1、2、1、2、3 となる。

この授業は 2 回の小テストと期末テストの合計点で評価することとした。小テストがそれぞれ 30 点満点、この期末テストが 40 点満点であり、合計で 100 点となる。先に実施した小テストをかなり難しくし、それに応じて得点も低くなっていたため、この期末テストは基本的な部分が理解できていれば満点が取れるように設定した。結果としてほぼ全員が 36 点か 40 点の得点となり、期末テストを受けた学生に限って言えば最低限の理解を全員に提供することができたものと推測される。これは好ましいことである。もちろん、発展的な内容の理解度によって評価に差を付ける必要はあるわけだが、それについては小テストの方の結果で判断した。

以上